

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシシャジョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップⅡ
	学部・研究科等名	表象文化学部日本語日本文学科
	担当教職員名・役職	丸山敬介・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	3
	受入企業等数	2
	受入企業等名	(財)京都日本語教育センター(財)滋賀県国際協会
	インターンシップの分類	9.その他
要素①	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	国際交流団体
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	関西を訪れるあるいは関西に居住する外国人はどのような環境にあつていかなる行動をとっており、そこにどのような日本語指導の必要性が生じているのか、その実際を国際交流団体の窓口業務を通して学ぼうとするものである。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している。6.当該インターンシップは、選択科目として実施している。8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
要素③	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年次及び4年次の学生を対象として、夏期休暇期間中の7日間以上の実習を行い、基幹科目の日本語教育分野の選択科目として実施している。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前指導として、インターンシップ先の活動内容を把握し、その機関において自分は何を学びたいかを明らかにし、発表する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後指導として、インターンシップ先で行った活動内容とそこで何を感じ考え何を学んだかを各自発表し、意見交換を行って後レポートを提出する。
要素④	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
要素⑤	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習先の事前学習や事後のレポート提出や発表により、学生が何を学び感じ取ったかを把握している。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	7日間～8日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
要素⑥	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	京都日本語教育センターで7日間、滋賀県国際協会で8日間のインターンシップを実施している。
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
要素⑥	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前事後の授業や、適宜、教室内外でフィードバックを行い、実習先と常に連携を図っている。

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/slbsbdr.do?value(risyunen)=2017&value(semekikn)=1&value(kougicd)=236460&value(crclumcd)=
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	表象文化学部・文学研究科事務室
	担当者役職名	事務長
	担当者氏名	池ノ内寛治
	電話番号	075-251-4106
	メールアドレス	nichi-i@dwc.doshisha.ac.jp